

## 意見交換資料（SDGs について）

### ✚ 現状

- 2015 年 9 月に国連サミットで持続可能な開発目標（SDGs）を含む「2030 アジェンダ」が採択された。
- SDGs の 17 の目標は、経済・社会・環境の三側面が調和した取組を推進するもので、例えば、貧困をなくすことや飢餓をゼロにするなどの開発途上国の支援に関するものから、クリーンエネルギーや経済成長、技術革新の推進など、先進国にも当てはまるもの、気候変動への対策や森林の持続的な管理など、地球環境の保全を目的とした世界規模のものまで広範にわたる。
- 国は SDGs を、日本の未来を創る国家戦略の主軸に据え、「SDGs 未来都市」や「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」などの取組を通じて、SDGs を強力に推進している。
- 本市の SDGs に係る取組として、SDGs 未来都市計画に記載の「森林」「エネルギー」「多文化共生」分野のほか、フェアトレード推進や健康寿命の延伸など、SDGs 達成に貢献する施策とともに、総合的に推進していく。

### ✚ 意見交換において、ご提案、ご議論いただきたいこと

- SDGs においては、多様なステークホルダーの連携とパートナーシップの重要性が強くうたわれている。
- すでに各々を主体として SDGs を推進されているところではあるが、今後はそれらを緊密に連携させ、パートナーシップにより SDGs に取り組むことがポイントとなる。
- 本会議を構成する産官学金労言の各団体又は委員個人として、現在取り組んでいることは何か、今後できることは何か、パートナーシップの形成に必要なものは何かについて、ご提案、ご議論いただきたい。

### ✚ 参考

- 地方創生に向けた SDGs の推進について（内閣府地方創生推進事務局）抜粋



ロゴ：国連広報センター作成

## 日本自身の課題に関係が深い目標の例 →実施には、多くの国内省庁が関係。

- 成長・雇用 ● クリーンエネルギー ● イノベーション ● 循環型社会 (3R: Reduce Reuse Recycle 等)
- 温暖化対策 ● 生物多様性の保全 ● 女性の活躍 ● 児童虐待の撲滅 ● 国際協力 等

3

## SDGsの17の目標

目標 1 (貧困)	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる。
目標 2 (飢餓)	飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。
目標 3 (保健)	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する。
目標 4 (教育)	すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する。
目標 5 (ジェンダー)	ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女子のエンパワーメントを行う。
目標 6 (水・衛生)	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
目標 7 (エネルギー)	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する。
目標 8 (経済成長と雇用)	包括的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用とディーセント・ワーク(適切な雇用)を促進する。
目標 9 (インフラ、産業化、イノベーション)	レジリエントなインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、およびイノベーションの拡大を図る。
目標10 (不平等)	各国内および各国間の不平等を是正する。
目標11 (持続可能な都市)	包括的で安全かつレジリエントで持続可能な都市および人間居住を実現する。
目標12 (持続可能な生産と消費)	持続可能な生産消費形態を確保する。
目標13 (気候変動)	気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
目標14 (海洋資源)	持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続的に利用する。
目標15 (陸上資源)	陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・防止および生物多様性の損失の阻止を促進する。
目標16 (平和)	持続可能な開発のための平和で包括的な社会の促進、すべての人々への司法へのアクセス提供、およびあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度の構築を図る。
目標17 (実施手段)	持続可能な開発のための実施手段の強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する。

4

# SDGsを巡る内外の動向

## 相互に絡みあうグローバル課題

- ・ 貧困
- ・ ジェンダー
- ・ 難民
- ・ 気候変動・自然災害
- ・ テロ
- ・ 感染症・非感染症 等

格差の拡大と、  
反グローバリズムの台頭

新興国・途上国  
の成長に陰り

主権国家以外の  
アクターの  
役割の拡大

不安定・不確実な国際社会において、  
持続可能な未来を作るためには、「**変革**」が必要。



SDGsは、絡みあう課題を**同時かつ根本的に解決し**、  
**持続可能な未来を示す羅針盤**

(3つの特徴: ①バック・キャスト、②アウトサイド・イン、③共通言語)。

SDGs推進は、**大きな成長と利益のチャンスも**もたらす。

(※世界経済フォーラムの推計によれば、

SDGs推進により、12兆ドルの価値、3億8千万人の雇用が創出)

各アクターは、SDGsに積極的に取り組むメリット、取り組まないリスクを考慮。

**SDGsで協力し、競争する時代に。**

### 【各国政府】

国際社会における  
主導力の獲得  
(国連、G20、G7等)

### 【企業】

本業として  
SDGsの推進  
(価値創造・創業)

### 【投資家】

環境・社会・  
ガバナンス(ESG)  
投資のリターン

### 【地方自治体】

地方の魅力・強  
みを活かしつつ、  
SDGsを推進

### 【市民社会】

SDGsを通じて  
声をひとつに

## 地方創生における自治体SDGs推進の意義

地方創生を深化させていくために、中長期を見通した持続可能なまちづくりに取り組むことが重要である。自治体における持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた取組は、地方創生の実現に資するものであり、その取組を推進することが必要である。

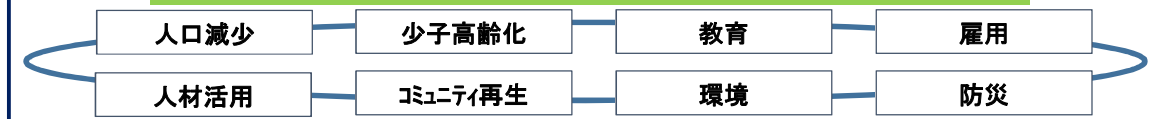
### 地方創生の目標

人口減少と地域経済縮小の克服 / まち・ひと・しごとの創生と好循環の確立

人々が安心して暮らせるような、持続可能なまちづくりと地域の活性化が実現  
地方創生成功モデルの国内における水平展開・国外への情報発信

相乗効果: 政策推進の全体最適化・地域課題解決の加速化

「経済」、「社会」、「環境」の三側面を統合する施策推進



### 自治体SDGsの推進

#### ○将来のビジョンづくり

- ✓ 地域の実態の正確な把握
- ✓ バックキャストのアプローチを採用した2030年のあるべき姿の設定
- ✓ ゴール・ターゲット等を参考とした政策目標の策定

#### ○体制づくり

- ✓ 部局を横断する推進組織の設置
- ✓ 執行体制(人材、予算、権限、進捗管理等)の整備

#### ○各種計画への反映

- ✓ 計画(総合計画、地方版総合戦略、環境基本計画等)にSDGsの要素を反映し、進捗を管理するガバナンス手法を確立

#### ○関係者(ステークホルダー)との連携

- ✓ 域内の連携(住民、企業・金融機関、教育・研究機関、NPO等)
- ✓ 自治体間の連携(国内)、国際的な連携

#### ○情報発信と成果の共有

- ✓ 内部における勉強会の開催、セミナー・シンポジウムの開催
- ✓ 成功事例の国内外への発信

#### ○ローカル指標の設定

- ✓ 取組を的確に測定するためのローカル指標の設定